医学教育センターニュース

6月号-B

編集・発行　医学教育センター
June 2005年　No.6

本学医学部では，海外で医学教育を体験することにより，広い視野を持つ医師を育成することを目的として，米国南イリノイ大学医学部と学生交換を含む包括的な相互交流を行っています。最近では，３月から５月にかけて１０名の医学部学生が短期留学生として派遣されました。
今回は，医学部学術国際交流委員会委員長から，学生派遣プログラムについてご説明いただくと共に，実際に短期留学を経験した学生さんのコメントをご紹介いたします。

学生派遣はどのようなプログラムで行なわれるの？

学生時代に海外の医学教育を体験し，実際の医療に触れることは医学生にとって大きな刺激になり，将来に向け有益な経験になります。本学では、米国南イリノイ大学（Southern Illinois University, SIU）医学部と学生交換を含む包括的な相互交流を行っています。同学部は，本学医学部とほぼ同時期の1970年に創設（州立の総合大学としては1869年）され，模擬患者（SP）、問題解決型学習（PBL）などの医学教育で数々の実績をあげています。今回の学生派遣事業は、これらを中心とする次の２つのプログラムからなっています。

〈臨床実習研修コース〉

６学年次生を対象としたこの派遣制度は，６学年次の４月から５月にかけて約２ヶ月間、SIUの４学年次用臨床実習選択コースに参加します。派遣学生は高度の英語力と臨床実習能力が要求されます。

SIU２学年次生と共に臨床実技ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞを行う学生さんたち

〈SIU２学年次カリキュラム受講コース〉

主に３，４学年次の学生が対象となり，春休みの約３週間を利用して、SIUの２学年次生のカリキュラムを受講する制度です。SIUの２学年次生と共に問題解決型学習（PBL）、チュートリアル講義、統合講義、臨床実技トレーニングなどを受講します。

SIU医学部長 J.Kevin Dorsey教授（写真一番手前），
横地高志教授（写真一番右），及び本学の学生さん

この国際交流プログラムは、多くの学生に海外留学へのチャンスを作り、医学生の国際的視野を広げるばかりでなく、自ら学ぶ姿勢を身につけるのにも役立ちます。

医学部学術国際交流委員会委員長　　横地高志

短期留学を経験した学生さんたちの声

自ら学ぶことの大切さ　　　　　　　　　　　　　　５学年次　小宮　美絵

SIUでは,「PBL（problem-based learning；問題基盤型学習）」及び日本の教育で多くみられる様な一学年が同時に講義を聞くという授業の両方が行われています。PBL では自分の意見が常に求められるため，学生たちは３，４時間以上の時間をかけて自分自身で予習をして授業に臨みます。もし，予習をしていなければこの貴重な時間を無駄にすることになってしまいます。そのため，学生は常に勉強をしています。それに引き換え，私を含めて大半の日本の大学生は，講義を受け，試験前だけ”詰め込み勉強”をしているのが現状だと思います。SIU の全ての学生が，毎日，PBL のために深夜まで図書館に残って勉強をしている姿を私は見ました。同時に，私自身，人から習うことで知識を増やすのではなく，自分から進んで知識を増やすことの大切さを PBL で体験できました。現在，日本では PBL 形式の授業が発展途上にあることを残念に思います。PBL 形式の授業が行われれば，今よりも早い時期から医学への興味が増すと考えます。

かけがえのない３週間　　　　　　　　　　　　　　５学年次　波多野芳美

この短期間に、講義・PBL・人形による実習・模擬患者による実習の見学など様々な体験をしました。いろいろな面で日本の教育との違いを感じ、驚きの毎日でした。講義は日本の授業のように一人の先生が講義するのではなく、一つの疾患に対して数人の先生が自分の専門分野を順番に講義していく統合型講義が行われており、PBL ではパソコン上にいる患者を自分たちが鑑別診断をしていく方法で学習をしました。討論をしていく中で、自分の知識はバラバラに存在しておりきちんと繋がっていないのだと感じましたし、いかに自分が今まで受身の姿勢で勉強に取り組んでいたかを知りました。

このように日本とは違う医学教育の場を少しでも体験でき、それらを知ったことはこれから医学を勉強していく上で大きな財産になったと思います。

自己表現と問題意識　　　　　　　　　　　　　　４学年次　宮本　直樹

私にとって，PBL 形式の授業は日本ではほとんど経験がないためついていくのに必死でした。また、英会話にも苦労しました。それは日常会話に加え、医学用語の理解が想像以上に大変で、アメリカ人の学生が自分の意見を活発に発言している中で自分の意見を英語で伝えることに始めは抵抗を感じましたが、徐々にその環境に慣れる事ができました。

アメリカの医学生は日本人と比べて積極的で、よく勉強をしているという印象を受けました。常に自分自身に「なぜ？」と疑問を投げかけるように勉強しているのです。

正直なところ、スプリングフィールドでの３週間はあっという間に過ぎました。それはアメリカの医学生の医学に対する熱意とやる気に少なからず影響を受けた３週間でもありました。

勉強に対するストイックさの違い　　　　　　　　　　４学年次　林　聖樹

SIU での「PBL」は、コンピュータを用いて医師対患者を忠実に再現し、ある症例に対して自分たちで主訴から鑑別診断をつけ、それに対する身体検査・臨床検査・治療など全てを考えながら医学知識を学ぶというものでした。私たちの普段の学生生活では、講義プリントや教科書を読んで詰め込んで・・・という受け身的なものですが、アメリカでは”自分が考えて・調べて・意見する”というアグレッシブな態度を持っていないと授業にもグループ学習にもついていけないのです。言うまでもなく、勉強時間にも相当の差がありました。また彼らは、模擬患者を招待しての実践的実習も行っており、それを通じて患者とのコミュニケーションや実技能力の向上にも努めていました。

このように、SIU で様々な刺激を受け、まだまだ自分は努力が足りないことに改めて気づきました。この貴重な体験をさせてくださったみなさまに感謝し、これからの学生生活でこの経験を活かしていけるように頑張りたいと思います。

SIU 医学部２学年次生と本学の学生さん

SIU 医学部ｷｬﾝﾊﾟｽ(ｲﾘﾉｲ州ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾌｨｰﾙﾄﾞ)

SIU 医学部校舎